

生活指導通信

No. 1 1

《学校生活の様子》

以前、授業規律についての話を生活指導通信でお伝えしました。その後、どの学年もしっかりと授業を受けることができるようになりました。一方で切り替えの早さ、説明中はしっかりと話を聞くということに課題が残ります。2月15日からは『授業規律確立週間』とし、生活委員が中心となって授業規律順守のさらなる定着に向けて、注意喚起の取組を行います。今後も、自分たちで授業に取り組む良い姿勢を生徒たちと教員とで一緒に作っていきたいと思います。

話は変わりますが、以前にもこの通信でお伝えしたように、登校時の出欠確認時刻ぎりぎりに到着する生徒が見られます。交通量の多い時間帯でもあり、慌てて登校することは思わぬ事故につながる危険もあります。また、時刻を過ぎてしまうと遅刻扱いとなります。登校は、単に間に合えばよいというものではなく、心と時間に余裕をもって一日をスタートさせることが大切です。余裕をもって登校することで、安全の確保はもちろん、落ち着いた気持ちで朝の活動や授業に臨むことができます。ご家庭におかれましても、生活リズムや朝の準備について今一度ご確認いただき、朝の慌ただしい時間帯ではありますが、安全でゆとりある登校ができるようお声かけをお願いいたします。生徒たちの安全確保のため、学校でも継続して指導してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本日は学年末考査最終日です。生徒たちは学習教室や質問教室を利用し、定期考査に向けて準備をしていました。どのような結果でも、そこまでの過程を大切にしてほしいと指導しております。また、昨年度より行ってきた本校の研究にもあるように、より重要なことは「分かったこと」「分からなかったこと」を整理し、「分からなかった」ことについてはどのようにすれば分かるようになるのかを考え、その方法を実践することです。家庭学習や授業中において方法 A が合わなければ、方法 B を試すといったように、自分の課題に合った方法で学習をし続けてほしいです。

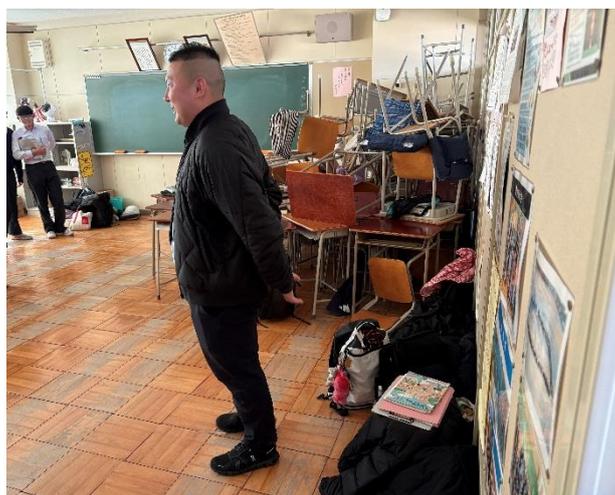
《不審者対応避難訓練の実施》

2月9日月曜日に不審者が突然校内に侵入したという想定のもと、不審者対応訓練を実施しました。

訓練では、教職員が「駆け付け部隊」「本部」「生徒安全確保担当」に分かれ、それぞれの役割を迅速に判断し、組織的に行動することを確認しました。併せて、さすまたの適切な使用方法や緊急通報装置の操作方法についても実践的に訓練を行いました。

生徒たちは、教員の指示のもと速やかに教室内でバリケードを作成し、静かに待機しました。机や椅子を工夫して配置し、不審者の侵入を防ぐ体制を整える姿は大変立派でした。

当日ご指導いただいた南大沢警察の方からは、「先生方が状況に応じて迅速に判断し、全員がその決定を徹底できていたこと」「生徒たちが落ち着いて行動し、侵入を妨げる堅固なバリケードを築いていたこと」についてお褒めの言葉をいただきました。



このような事態は決して起きてはならないことですが、万が一に備え、具体的に想定しながら訓練を積み重ねることが大切です。今後も安全・安心な学校づくりのため、継続して取り組んでまいります。



《地域の方からの情報提供》

先日、地域の方より「トミンハイム上柚木近くの座り場(公共施設)にごみが放置されていることがある」との情報をいただきました。その中で、「中学生とは限らないと思うが、学校でもマナーについて呼びかけていただけるとありがたい」とお話されていました。本校では、このご意見を地域からの大切な声として受け止め、近隣の小学校にも協力を依頼し、あらためて公共施設利用時のマナーについて子どもたちへ呼びかけを行いました。

具体的には、

- ・公共の施設はみんなで使う大切な場所であること
- ・きれいに、ていねいに利用すること
- ・自分のごみは自分で持ち帰ること

といった基本的なマナーを確認いたしました。



呼びかけ以降、特に新たな情報提供はなく、地域の方からは「しばらくごみの放置がない。対応していただきありがとうございます」と感謝のご連絡もいただいております。

今回の件は、本校の生徒を疑うという趣旨のものではなく、地域全体で気持ちよく公共の場を利用していくための注意喚起として受け止めております。学校としても、今後も折に触れてマナーについて指導を続けてまいります。

ご家庭におかれましても、公共の場の利用について話題にさせていただければ幸いです。今後とも、地域とともに子どもたちを育てていけますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

座右の銘・人事を尽くして天命を待つ

私が好きな言葉の一つです。中学生のとき、野球チームの監督に言われてから今も大切にしている言葉です。この言葉の意味は、できる限りの努力を重ねたならば、あとは静かに結果を受け止めるということです。「人事」とは、人としてできる限りの努力や準備のことです。「天命」とは、自分の力ではどうにもならない結果や巡り合わせを指します。私たちは、結果ばかりに目が向きがちです。テストの点数、試合の勝敗、選ばれるかどうか。しかし、この言葉が教えてくれるのは、「まずはやるべきことを丁寧にやり切ること」の大切さです。努力を尽くしたかどうかは、自分自身が一番よく分かります。やるべきことをやり切った経験は、たとえ思うような結果ではなかったとしても、次へ進む力になります。お子様も、学習や部活動、人間関係などの中で、思いどおりにならない場面に出会います。そんなとき、「結果」だけで自分を評価するのではなく、「やるべきことをやり切ったか」という視点をもてるようになってほしいと願っています。

ご家庭でも、努力とはどのような姿勢をいうのか。結果が出なかったとき、どう受け止めるか。やり切った経験は何を残すのか。といったことを話題にさせていただければ幸いです。画竜点睛と併せて、『準備はぬかりなく』と伝えても良いと思います。

学校でも、結果だけに一喜一憂するのではなく、過程を大切に作る姿勢も育ててまいります。